

目次

新名護博物館基本計画

I 本編

はじめに	2
1. 全体計画	
(1) 新館建設の意義	5
(2) 新館建設の目的	6
(3) 基本理念	8
(4) 基本テーマ	9
(5) フィールドミュージアムにおける役割	10
(6) 地域に果たす新名護博物館の役割	13
2. 活動計画	
(1) 博物館の5つの活動	17
(2) 博物館活動の内容	
① 資料収集・保存	18
② 調査・研究	21
③ 展示	24
④ 教育普及	27
⑤ 連携	31
(3) 博物館活動を推進させるために	34
3. 施設計画	
(1) 施設立地	39
(2) 施設配置のイメージ	44
(3) 建築計画	49
4. 展示計画	
(1) 展示の基本方針	53
(2) 常設展示の構成と展開	
エントランス	54
海	55
まち・ムラ	57
山	60
くらしの実践・体験エリア	63
自然と人との共生エリア	66
(3) 展示空間と展示テーマ	70
5. 管理運営計画	
(1) 基本方針	75
(2) 管理運営の方法	76
(3) 管理運営の体制	81
(4) 財務	83
(5) 市民参画	84
6. 新博物館建設にむけて	
(1) 博館建設の足どり	89
(2) 新名護博物館建設事業工程	90

II 資料編

はじめに

名護市教育委員会は、平成21年3月に「名護・やんばるのくらしと自然」をテーマとした「新名護博物館基本構想（仮称）」策定いたしました。

その中で、学校教育や社会教育と連携した「人づくり」、地域の豊かな自然や伝統文化などの在来地域資源を活用した「ものづくり」などを基本方針として打ち出しています。

名護博物館においては、これまで『ぶりでい』の精神（みんなの手で何かを成し遂げることを大切にした活動や運営を行ってまいりましたが、新博物館においてもこの理念を受け継ぎ、先人の遺したくらしや知恵を現代に活かし、市民と共に創り上げる博物館を目指してまいります。

平成23年10月に開催された「新名護博物館基本計画検討委員会」において、新博物館建設候補地として、沖縄県森林資源研究センター跡地があげられています。

当地は、市街地に近く、博物館の基本的な機能である（1）資料収集・保存（2）調査・研究（3）展示（4）教育普及（5）他機関との連携、の観点から、また、まとまった面積が確保できるため「博物館を生かしたまちづくり」を推進するうえでも最適地であるといえます。この新しい名護博物館は、市民、やんばるの人々のみならず、来訪者に知的好奇心を満足させ、多くの方々が集う心安らぐ空間が創出できるものと確信いたします。

まちづくりは、そこに住む人々の豊かな情操や感性を大切にしながら、地域に誇りをもつ人材を育てることから始まります。その力が文化力となり、市民に浸透していくものと考えます。

名護・やんばるの文化力の拠点となりえる新名護博物館の建設にむけて、市民が一丸となって取り組む時期が、今まさに到来しています。

名護市教育委員会
教育長 座間味法子

1. 全体計画

Outline of a plan



1. 全体計画

(1) 新館建設の意義

博物館は未来にむかう

博物館の使命——それは、地域の財産を次世代に継承し、文化、学術、教育など、あらゆる面で地域に貢献することです。

人間はつねに、自分の存在を確かめずにはいられない動物です。ふとした時に立ち止まり、昨日までの自分を確認しては明日に備えます。過去から未来に続く時間の中に、自分や家族、故郷へのつながりを見だし、懐かしさや安らぎ、誇りを覚えるのは、ごく普通の感情だといえるでしょう。

先の東日本大震災は、私たちに大きな教訓を残しました。多くの尊い人命とともに地域の財産が失われましたが、辛うじて残った文化財などが人々の復興への希望につながっています。地域の財産は人々が自分の存在を確かめるための生きる拠り所でもあり、未来へ残し継承していく必要があるのです。

豊かな自然の中で育まれたやんばる(山原)の人々のくらしは、自然と共生するための知恵と工夫があふれています。それは、現代の大量消費社会が直面している環境や安全、教育におけるさまざまな問題を考える上で、貴重な手がかりを数多く秘めているといえます。自然や歴史・文化を記録し、保存・継承していくことの必要性がそこにあります。単にものを並べて保存するだけでなく、さまざまな実体験や学習を通して、地域の資源を次世代に受け継がせる博物館の取り組みが、明るい地域づくりの一步となるのです。いつでも立ち戻ることができる過去を教えてくれる空間であり、先人たちの知恵や生き方から、一人一人が未来を考えることができる場所、それが博物館といえるでしょう。

博物館は地域社会とともにあり、人々との交流の中でともに成長していく機関です。さまざまな活動を実践していく場であり、人々の出会いがさらなる発展を生み出す、創造の場でもあります。

開館 28 年目を迎える名護博物館は、地域の協力を得て成長し続けてきました。

しかし、年月を経て活動が充実するとともに、建物の老朽化や活動スペース、資料保存場所の確保が大きな課題となってきました。

また、一方では、地域が博物館に求めるニーズもより多様化し、高度になってきています。

そこで、機能や体制を現在よりもさらに充実させ、地域の声に応えられる、新しい名護博物館が必要とされているのです。

1. 全体計画

(2) 新館建設の目的

まちづくりのための実践的な活動を、市民とともに

平成21年に策定された『第4次名護市総合計画』では、まちづくりの基本理念として、(1)ともに生きる ～人、自然、地域社会が生命豊かに支え合うまち～ (2) 自らはばたく ～伸びやかに自分らしくはばたける誇りに満ちたまち～ (3) 響きあう ～まずの一步が力を結集し、大きく鼓動するまち～、の3つを大きな柱にしています。

また、平成22年に沖縄県が策定した沖縄21世紀ビジョンでは、「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にす島」を目指すべき将来像の一つとして明確に謳っています。さらに、現在策定中の沖縄21世紀ビジョン基本計画(案)でも、「環境共生型社会の構築」を目指すことが盛り込まれています。

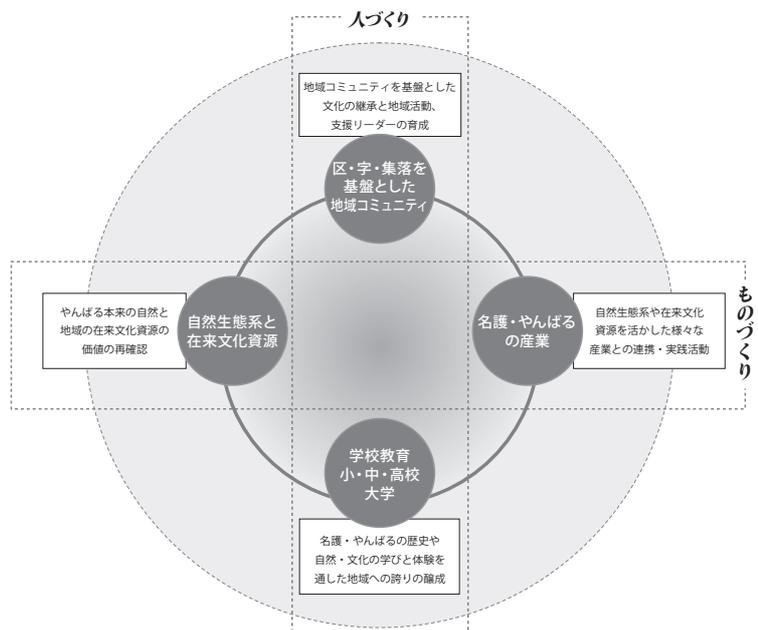
このような理念・目的の実現にむけて、実践的な活動・教育を行う場が必要とされ、博物館をふくむ社会教育機関が担う役割は非常に大きいでしょう。

新名護博物館は、「人づくり」と「ものづくり」の交わる場所で、未来をひらく創造の芽を育てることを大きな目的とします。

名護・やんばるには、豊かな自然と、長い年月を経て受け継がれてきた地域コミュニティが残されています。この強みを活かし、地域の自然や歴史、伝統文化を感じながら、ふるさとの誇りを醸造するための場が必要とされるでしょう。同時に、これらを「在来地域資源」として評価し、「ものづくり」にいかすための拠点も必要です。

多くの資料を持ち、様々な調査・研究を行う新名護博物館は、その役割の一端を担います。未来を背負う子どもたちの成長に欠かせない学校教育や社会教育と連携を強化し、市民とともに行う「人づくり」、「ものづくり」を通してより良いまちづくりに貢献します。

まちづくりと博物館の役割



1. 全体計画

「名護・やんばる」とは

「やんばる(山原)」と聞いて、沖縄本島北部の山や森林など豊かな自然が多く残された地域を思い浮かべる人は多いと思います。

名護市を含む旧国頭郡は、中生代以前に形成された岩石を基盤とする山々が連なっており、中南部に比べて高い山や溪谷、河川が発達し、豊かなイタジイの森林に覆われています。そのため、琉球石灰岩を基盤とする中南部と比べると、北部で見られる地形や動植物などの自然的特徴はかなり異なります。また、古くは14～15世紀の三山時代にほぼ同じ範囲を北山が統治し、それ以降、行政的にも中南部と区別されてきました。このような背景の中で、やんばるでは、自然との関わりも含めて、独自の歴史、伝統、生活文化が育まれてきました。

こうした理由から、恩納村・金武町以北の本島北部(旧国頭郡)と伊是名島・伊平屋島を含めた12市町村をまとめて「やんばる」とよぶのが一般的です。しかし、自然や歴史・文化的特徴という意味で、奄美大島に至るまでの島々とも関係が深く、類似点も多く見られます。また、本島北部の中でも古くから中核的な都市機能を持つ名護市を強調して、「名護・やんばる」とよぶ場合もあります。

新しい名護博物館は、これらの多角的なやんばるの捉え方を踏まえて、博物館が活動するフィールドを「名護・やんばる」として表現し、名護からやんばる全体を見つめます。



1. 全体計画

(3) 基本理念

【新名護博物館を支える6つの柱】

名護・やんばるのくらしと自然を表現する博物館

新名護博物館は、名護・やんばるの要として、奄美もふくめたやんばるのくらしを表現する地域総合博物館です。名護・やんばる全域をフィールド博物館としてとらえる視点を持ちながら、地域の人々とともに考え、行動する博物館活動を展開します。

過去と未来のくらしを考える博物館

新名護博物館は、地域のかつての姿や残されたものから社会やくらしを考え、未来を思い描くきっかけを提供する場所です。過去に学びながら、私たちが向かうべき方向をともに考えます。

みんなでつくる博物館

新名護博物館は、地域にひらかれた拠点としてこれからも活動します。誰もが豊かな文化にふれ、学ぶと同時に提供する立場にもなる「ふりてい(みんなの手)」精神を受け継ぎ、人々が活発に交流できる場所となることをめざします。

あつめ・考え・守り育てる博物館

新名護博物館は、資料の収集・保存、調査・研究、教育普及を基礎に活動します。それぞれは高い専門性を持つと同時に、協力しながら在来文化資源の保護・活用、人々の表現・活動支援などをおこないます。外部組織との連携や関係強化も推進します。

名護・やんばるの情報をつたえる博物館

新名護博物館は、博物館ならではの視点に立って地域の情報を蓄積するとともに、さまざまな形の情報発信に取り組みます。博物館活動の広報や紹介だけでなく、名護・やんばるの自然・文化の情報に関する、幅広い利用者ニーズに応えます。

夢がひろがる博物館

新名護博物館は、地域に根差しながら世界を見つめる目を育みます。地域の歴史・文化に、自己とのつながりや誇りを見いだす時、世界や未来に立ち向かう勇気や夢を、子どもたちは獲得するので、積極的な事業展開をすすめ、希望にあふれた博物館になることをめざします。

1. 全体計画

(4) 基本テーマ

名護・やんばるのくらしと自然

名護・やんばるの人々は、自然の厳しさ、やさしさに向き合ってきたからこそ、先人の教えや知恵を敬い、地域のつながりを今も大切にしているといえるでしょう。在来の資源をたくみに取り入れた農業や漁業、ものづくり、伝統行事などにも、その技や思いは反映されています。

新名護博物館は、やんばるのくらしと自然に根ざした活動を展開しながら、地域資源を活かしたあらたな価値の創造を支援します。

【テーマ展開の視点】

やんばる本来の自然生態系の再生

傷つけられた現在の自然を、多様性に満ちた生態系にもどすことは、単に景観をよくするだけではなく、環境に配慮したこれからのくらしや、ものづくりを考える上でも有効な財産となります。

在来文化資源を活かした、やんばる型農業の創造

在来文化資源を活かした複合型の農業経営は、「やんばる型農業」を創造する基本であり、循環型社会を予測するものです。自然との共生を視野に入れた博物館活動を展開します。

伝統行事の保存・継承とあらたな交流

「村遊び」に代表される地域の伝統行事を保存・継承するためにも、博物館を通じた行事の紹介や公開・公演を積極的にすすめて、あらたな交流や広がりを獲得します。

集落の成り立ち、村(ムラ)の歩みの継承

集落単位で推移してきた名護・やんばるの歴史は、現在も字のくらしに受け継がれています。博物館は地域の一人一人がアイデンティティを自覚し、未来を考える場となります。

くらしの知恵・わざ・心を、体感・実践する

地域に伝えられた知恵やわざには、現代に通じる普遍性があります。博物館では実践的な活動の中からその価値を見直し、あらたな発見や創造を通してものづくりを支援します。

先人たちが遺した文化資産の保存・活用

名護・やんばるゆかりの人物に関する資料群や美術工芸作品を収集・研究し、活用をはかることは、地域の人々の自信や誇り、人材育成につながるものです。

1. 全体計画

(5) フィールドミュージアムにおける役割

「フィールドミュージアム」とは、地域に残る自然や文化を活用しながら保存・継承するため、さまざまな活動拠点をネットワークでつないで、その地域一体を「屋根のない博物館」として捉える考え方です。

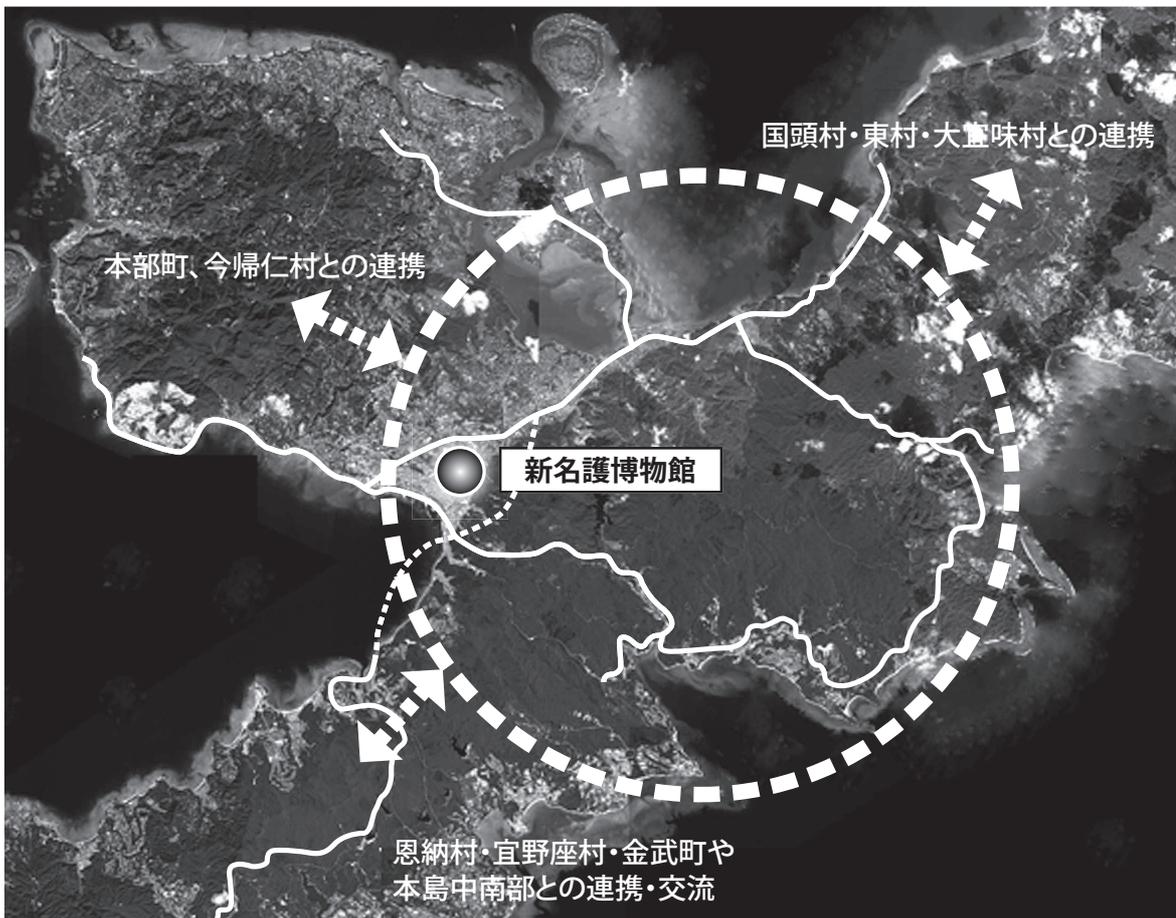
新名護博物館は、名護・やんばるをフィールドミュージアムと捉え、そのくらしと自然の魅力を発信する総合ガイドンス拠点として、館内の展示で完結せず、フィールド各地に広がる多様性ある文化と自然へ誘う役割を担います。



【地域を支える3つの拠点機能】

① 名護・やんばるの総合ガイドンス拠点

名護・やんばるの中心をなす博物館として、各地の文化施設や機関と連携した活動を展開し、各拠点や地域を支援します。



1. 全体計画

② 名護市域各地区の活動ネットワーク拠点

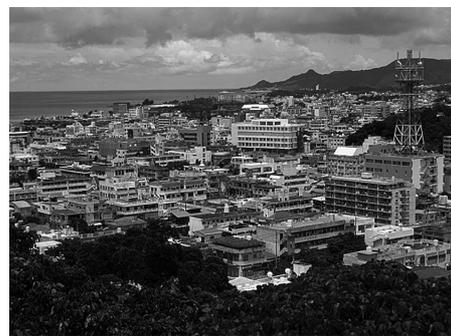
名護市をとりかこむ3つの海に、名護市の5つの地区は面しています。海と陸とを一つの単位と考えると、名護市には3つの活動フィールドを想定することができます。それぞれのフィールドでは、5つの地区の個性と魅力が集約された活動拠点として、地域情報が常に反映されることを目指します。

フィールド1：名護湾岸エリア(名護・屋部地区)

名護湾を取り巻く名護・屋部地域は、本部町、恩納村に隣接し、北部圏全体の中心として市外からのアクセスに対応。市街地やその周辺の観光産業などの活性化にも寄与。

<おもな活動>

学校・文化施設・公民館などとの連携による博物館活動(教育普及、調査・研究など)の推進／観光・産業関係者との連携によるまち歩きコーディネート



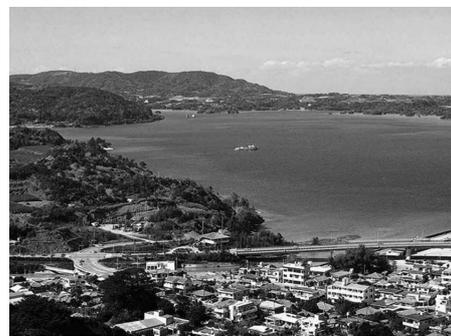
名護市街地(名護湾)

フィールド2：羽地内海周辺エリア(羽地・屋我地地区)

羽地内海沿岸・屋我地島を中心とする地域は、やんばるの生態系に関わる自然史の総合的な調査研究拠点。今帰仁村、大宜味村、国頭村との交流拠点。

<おもな活動>

内外の専門研究機関とのネットワーク構築と研究サポート体制の整備／羽地内海・羽地大川・源河川などをフィールドにした体験事業の実施、サポート、プログラム開発



羽地内海の眺望

フィールド3：東海岸エリア(久志地区)

東海岸沿いのエリアは、沖縄でも数少ない山林・海岸などがかつての姿で残る地域として、西海岸側とは異なる魅力をアピール。

<おもな活動>

学校跡地を利用した中長期の滞在型ツーリズム・自然観察や農林業体験などの実施、サポート／宜野座村・金武町・東村と連携した東海岸沿いネットワークを構築し、研究・観光・産業などの交流を推進



久志地区(汀間)

1. 全体計画

③ 新しいまちづくりにつながる交流・にぎわい拠点

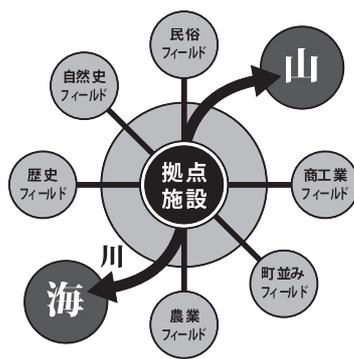
地域力を向上させる活動ネットワーク

地域づくりのテーマ、ストーリーを共有しながら相乗効果を発揮
名護市の事業・構想とリンクした市民参画の活動拠点

新名護博物館基本構想でうたわれたフィールドミュージアムの視点を、発展・具体化させるために、名護市全体で計画・展開されている事業・プロジェクトから、博物館テーマ「名護・やんばるのくらしと自然」と活動内容や目的を共有するプロジェクトを連携させ、事業推進を効果的・効率的にすすめます。

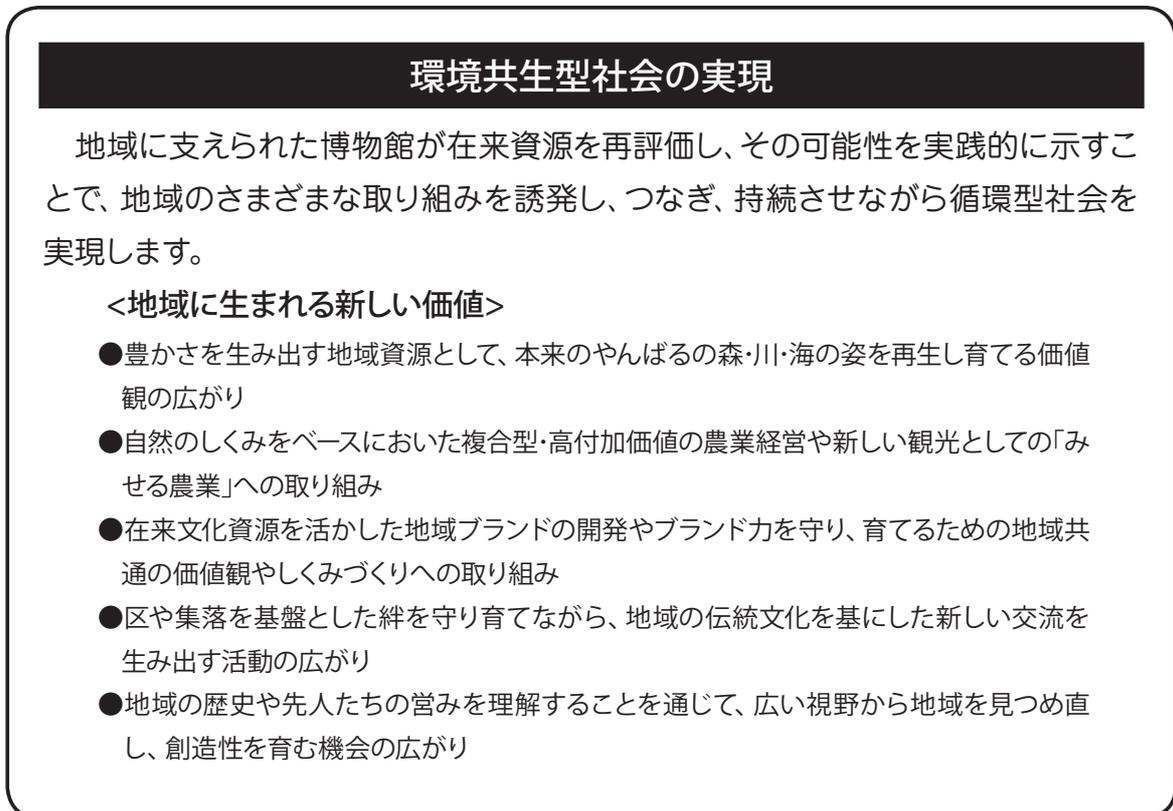
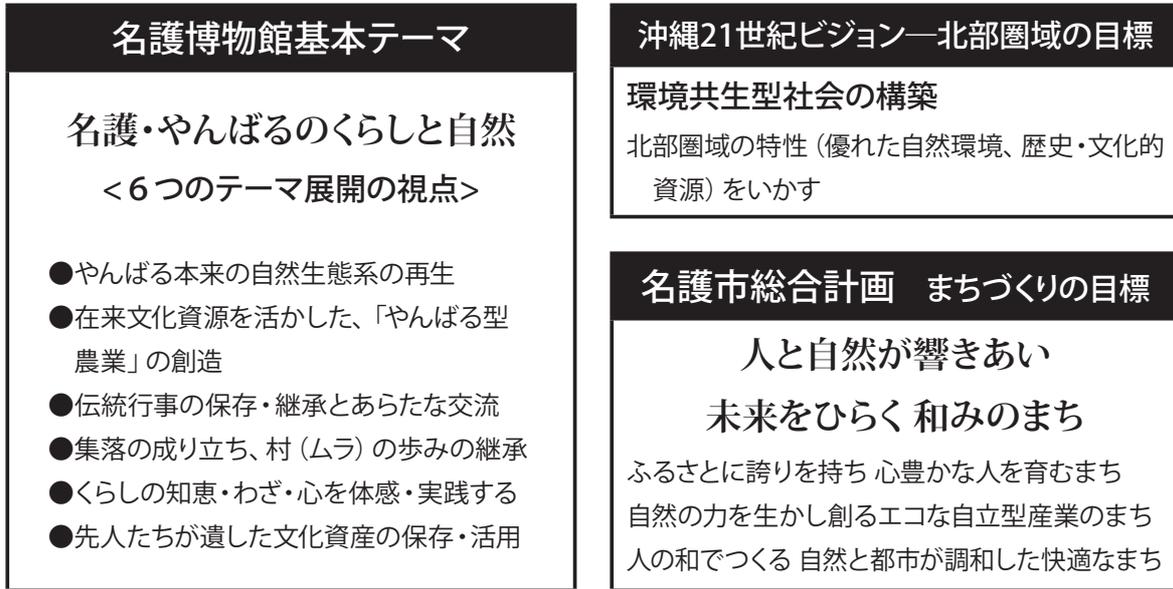
フィールドミュージアム構想＝地域づくりのトータルプランニング

3つの異なる海（湾）とそれぞれに形成された地域の豊かな自然と文化を、山から海へと続く景観やそこに関わる人々のくらしを通して学ぶ新名護博物館は、共同体の新たな形が求められるこれからの社会で、地域のさまざまな活動をサポートする具体的・実践的な取り組みの場となります。



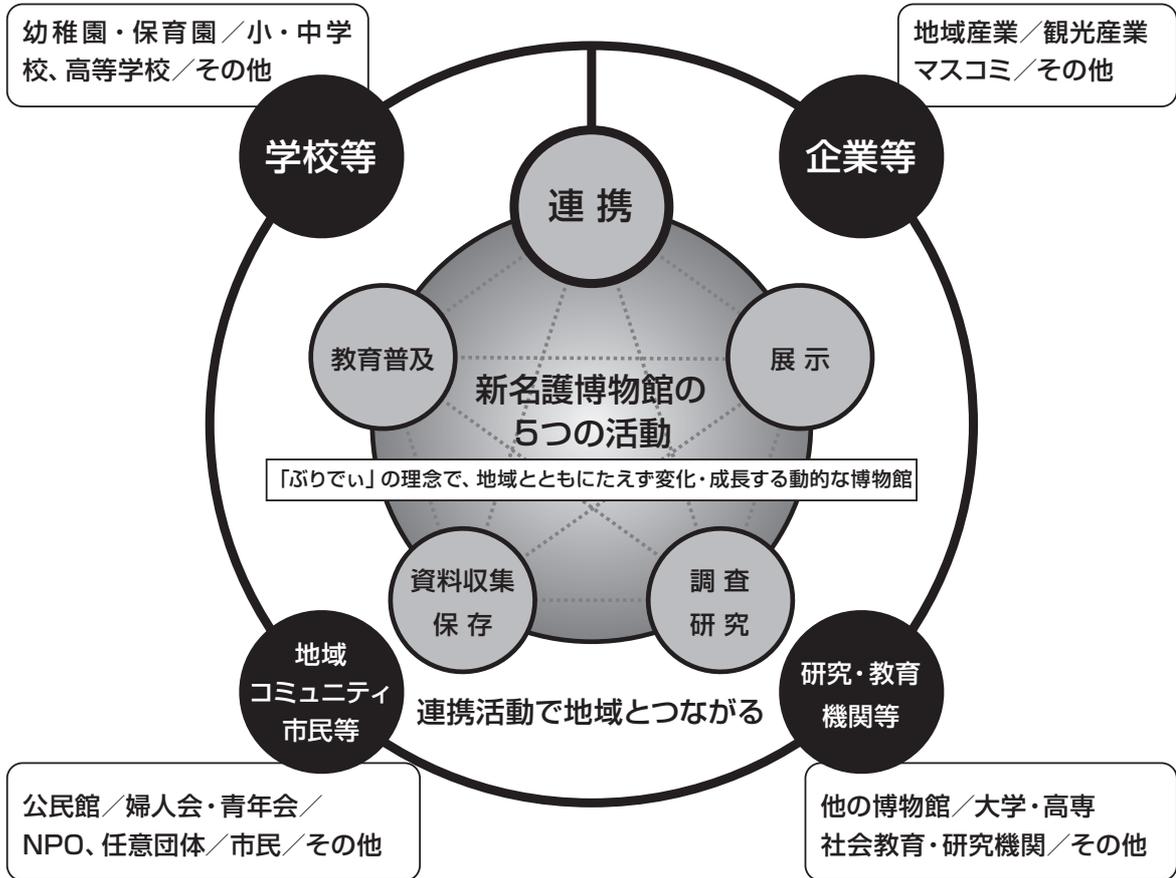
1. 全体計画

(6) 地域に果たす新名護博物館の役割



1. 全体計画

「ひと・もの・自然」の一体的なシステムを保存・継承・活用し
 地域に新しい価値を生み出す活動を推進



活動のつながりイメージ



さまざまな体験を関係させながら、活動の広がりを生み出す



フィールドの自然資源を保存・再生・活用する



活動の成果を展示活用し、次の活動にいかす



自然資源を利用するための知恵や技術を継承する



実体験にもとづく感動から新しい価値を創造する